

紫竹学林会通信

2019年12月15日 No.27

2019年度の第35回「紫竹学林会」の会合を2020年1月25日(土)に、大学院棟のある深沢キャンパスにて以下の要領で開催いたします。今回は、本年度地理学科に准教授として着任されました小野映介先生に「ラオスの天水田稲作と自然環境のこれまでとこれから」と題してご講演をお願いいたしました。また同日、地理学教室主催の「修士論文発表会」が「紫竹学林会」の前に開催されます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

なお、会への出欠を1月18日までにEmailかFaxでご連絡いただきたくお願い申し上げます。

日時：2020年1月25日(土)

会場：駒澤大学 深沢キャンパス 2階2-1 講義室

修士論文発表会(地理学教室主催)

【修論発表会】 13:00~15:10 (発表15分+質疑5分)

阿部 諒：「日本人の世界一周旅行に見る行動の空間的特徴」	13:00~13:20
宇井 直将：「首都圏郊外における駅前景観の類型と地域差」	13:20~13:40
大坪 亮太：「黒部市における水をめぐる価値の変遷—テキストマイニングを用いた分析—」	13:40~14:00
鎌塚 正典：「世田谷区における浸水域の変遷とその要因—高度経済成長期後を対象として—」	14:10~14:30
佐藤 俊文：「房総半島中西部湊川下流域の地形発達」	14:30~14:50
西脇圭一郎：「東日本における天井川の分布とその形成要因」	14:50~15:10

紫竹学林会(講演・総会・懇親会)

【講演】 15:30~17:00

小野映介先生：「ラオスの天水田稲作と自然環境のこれまでとこれから」

<先生の紹介> 小野映介先生は、新潟大学教育学部から今年4月地理学科に准教授として着任されました。先生は、立命館大学大学院修士課程、名古屋大学大学院博士課程後期を修了され、2006年に博士(地理学)を取得されました。ご専門は地形学・環境地理学で特に、完新世後期の地形環境変遷やラオス中部の沖積平野の研究を中心にされています。

講演要旨：東南アジアの内陸国のラオスでは、自然環境を巧みに利用した天水田稲作が行われてきた。首都ヴィエンチャン近郊の農村におけるフィールドワークの成果をもとに、天水田稲作の特徴や村人の自然環境利用について紹介する。また、近年の経済状況の変化により、農村の暮らしは劇的に変わりつつある。その変化についても報告する。

【総会】 17:00~17:20 (大学院OB会員・院生)：2018年度会計報告、幹事改選、その他

【懇親会】 17:20~20:00 (会員だけでなく学部生や卒業生など、どなたでも参加できます)

会場：駒澤大学深沢キャンパス 洋館小ホール 会費：5000円(院生・学部生：2500円)

*学部生や卒業生などどなたでも参加可ですが必ず事前に出席の連絡を地理学科高橋までお願いします。

takahasi@komazawa-u.ac.jp